

科目名	高次脳機能障害学 I			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
							ST1年 後期
【授業の目的・ねらい】 失認・失行・視空間障害等について学び、高次脳機能障害がどのように起こるのか理解する。							
【実務者経験】 言語聴覚士として倉敷市立病院に勤務、高次脳機能障害のリハビリテーションに従事経験。							
【授業全体の内容の概要】 高次大脳機能障害に関する知識を習得し、検査、評価法を学び、リハビリテーションについて理解を深める。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次大脳機能障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等を実施するための基礎を習得する。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	高次脳機能障害基本概念、脳のはたらき、脳機能的領域、側性化について理解できる						教科書、PC(講義用)
2	高次脳機能障害のリハビリテーションについて理解できる						教科書、PC(講義用)
3	視知覚障害、視覚認知障害について理解できる						教科書、PC(講義用)
4	半側空間無視、地誌的見当識障害について理解できる						教科書、PC(講義用)
5	バリエーション症候群、構成障害について理解できる						教科書、PC(講義用)
6	触覚性失認・聴覚性失認について理解できる						教科書、PC(講義用)
7	病態失認について理解できる						教科書、PC(講義用)
8	失行について理解できる						教科書、PC(講義用)
9	記憶障害について理解できる						教科書、PC(講義用)
10	前頭葉機能障害について理解できる						教科書、PC(講義用)
11	脳梁離断症状について理解できる						教科書、PC(講義用)
12	認知症で生じる高次脳機能障害について理解できる						教科書、PC(講義用)
13	脳外傷・認知コミュニケーション障害について理解できる						教科書、PC(講義用)
14	認知コミュニケーション障害について理解できる						教科書、PC(講義用)
15	過去問に触れ問題傾向を知り、理解する						教科書、PC(講義用)
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版							
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習・復習をおこなってください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							